

## CONTENTS

秋季企画展 蘭学者が見た世界	2
冬季企画展 鶴田藩医能勢家資料展	3
友の会のページ 植栽整備・史跡見学会	4
NEWS FILE	5
新収蔵資料紹介	6
資料館展示品から	7
INFORMATION(催し物のご案内)	8

# 洋学 資料館

No. 31

March, 2023



津山洋学資料館  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

美作市の湯郷温泉から国道374号線を福本まで南下し、県道414号線へ左折して700mほど東へ進むと、やがて幕末から明治期にかけて活躍した在村医山本笠山(1838～1899)の屋敷跡に到着します。

18歳で長崎に遊学した笠山は、長崎在住の木村逸斎(鏡野町出身)や高山俊斎(津山市出身)に医術を学んで帰郷します。その後、再び江戸に遊学しますが、医師であった父恵順の死によって帰郷。明治以降は北条県から医務取締、学区取締などに任命され、小学校創立に尽力して62歳で没しました。今でも近くに石碑や土塀の一部がわずかに残っていて、当時の様子を偲ぶことができます。(美作市井口)

文・写真 名誉館長 下山純正



秋季企画展

蘭学者が見た世界 — 箕作省吾と新製輿地全図 —

■ 会期：令和4年10月15日（土）～11月13日（日）

18世紀後半、蘭学の勃興・発展にともない、ヨーロッパ製の世界地図や地理書が輸入されるようになりました。そうしたなかで、蘭学者は西洋の世界観に則って多くの世界地図を刊行するようになり、それまでの楕円形の世界図（マテオ・リッチ系世界図）だけでなく、両半球を双円に描く世界図（蘭学系世界図）が人々の間で広まるようになりま

す。箕作省吾（1821～46）は、養父箕作阮甫の協力のもと、世界地図「新製輿地全図」とその解説書となる世界地誌『坤輿図識』、『坤輿図識補』を著しました。卷子仕立てで扱いやすかった「新製輿地全図」は、当時最新の世界地図として多くの人々に世界情勢を伝え、坂本龍馬や吉田松陰、桂小五郎らに世界を意識させました。

本展は、蘭学者が世界をどのように認識し、いかに西洋の知識を摂取して世界への視野を広げていったのかを概観しつつ、箕作省吾の生涯に光を当てることを意図したもので、令和3年が省吾の生誕200周年に当たることから、もとは1年前の秋季企画展として計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の流行拡大によって準備が困難となったため、やむを得ず延期していました。

箕作家のご子孫から国立国会図書館に寄託されている「新製輿地全図」の版木をはじめとする阮甫・省吾の地理学に関する資料を借用・展示し、彼らが新しい情報を伝えようとして、いかに苦心したのかをご紹介します。ご覧になった方からは、細部まで緻密に彫られた版木に感嘆する声が多く寄せられました。

最後に、コロナ禍の中、貴重な資料のご出展をはじめ、本展の開催にご尽力いただきました関係各位に、心よりお礼申し上げます。

冬季企画展

鶴田藩医能勢家資料展

～ 維新の荒波を越えた漢方医の生涯 ～

■ 会期：令和4年12月3日（土）～令和5年2月19日（日）

1866（慶応2）年、幕府と長州藩の間で第二次長州戦争が起きました。親藩であった浜田藩（現在の島根県浜田市）は、長州軍と衝突し、多くの死傷者を出す苦戦を強いられ、ついには自ら城を焼いて退城、所領（飛び地）のある美作へ移ることになります。そして領内の地名にちなんで、鶴田藩と藩名を改めました。

代々浜田藩の藩医を勤めていた能勢家の道仙（頼善）（1833～78）もまた、家族を連れて松江・米子までは船で、そこから陸路で因美の山並みを越えて美作へとたどり着きます。そして1869（明治2）年まで鶴田藩医として勤め、以降は医業のかたわら漢学塾「猶興舎」を開いて門人を育て、1873年頃には小学校教員となり、教育の道へと進みました。

その子の萬は、父の「猶興舎」で学んだ後もしばらく郷里で修学を続けますが、やがて上京して法学の道に進み、裁判官となって各地を転任しています。郷里を離れて活躍した萬ですが、父道仙の蔵書を大切に保存すべきものとして整理しており、父への敬慕の念がうかがえます。

約1年前、大森博文さんからの寄贈や、古書店からの購入により、能勢家の資料が当館にまとまって收藏されたのをきっかけとして、能勢家が幕末・維新期の時代の荒波をどのように越えていったのかをご紹介します。本展の開催を計画しました。

会期中は、鶴田藩に関する質問や問い合わせが相次ぎ、能勢家に限らず、鶴田藩について広く知っていただく良い機会となりました。

最後に、本展の開催に当たってお力添えを賜りました関係各位に、深くお礼申し上げます。



友の会の活動

友の会有志による  
植栽整備ボランティア活動

友の会では、年に数回程度、有志による洋学資料館の薬草の小径や中庭などの植栽整備活動を行っています。

今年度は、4月24日(日)に第1回を薬草の小径で、11月20日(日)に第2回を中庭において実施しました。皆さん使い慣れた道具を持って、伸びすぎた樹木の剪定や草取りを行い、終了後はすっきりきれいになりました。



第35回友の会史跡見学会  
津山城下の史跡を訪ねて(城西編)

10月29日(土)に第35回史跡見学会を実施しました。今年の史跡見学会も、バスを利用せず、津山市内の史跡の徒歩散策とし、今回は、令和2年に重要伝統的建造物群保存地区に選定された城西地区をめぐりました。

まず、本町三丁目の岸三省堂を訪問し、ご店主の説明を受けながら、岸田吟香が筆をふるった店名の扁額や、特別にご用意いただいた漢詩の掛軸を拝見しました。

次に、寺町へ移動し、平成元年に



岸三省堂の店頭

多磨霊園から宇田川家三代の墓所が移転された泰安寺、歴代が華岡家に入門して外科医として津山藩に仕えた久原家の墓所がある長安寺、産科医として津山藩に仕え種痘の普及にも尽力した野上家墓所がある寿光寺をお参りしました。

その後、完成当初の煉瓦舗装が発見され、土木学会から令和4年度の選奨土木遺産に認定された翁橋を経て、城西浪漫館に向かいました。こちらは、大正6年に建てられた中島病院の旧本館で、洋学資料館旧館の旧妹尾銀行林田支店と同じく池田豊太郎が手掛けています。館内見学の後、玄関前で記念撮影しました。

そして、南新座へ移動し、知新館(平沼家旧宅)を外から見学して、全ての行程を無事に歩き終えることができました。参加者の皆さん、どうもありがとうございました。



城西浪漫館前での記念撮影

- 見学コース
- アルネ津山 集合・出発 →①岸三省堂 岸田吟香揮毫の扁額(本町) →②泰安寺 宇田川家三代墓所(西寺町) →③長安寺 久原家墓所(西寺町) →④寿光寺 野上家墓所(西寺町) →⑤翁橋(西今町) →⑥城西浪漫館 旧中島病院本館(田町) →⑦知新館 平沼家旧宅(南新座) →アルネ津山 帰着・解散

NEWS FILE

「海洋研」研究大会  
津山市に誘致・開催

9月3日(土)、近世・幕末維新期「海洋国家」と「異国」研究会(略称・海洋研)の公開研究大会が、三津同盟の締結記念として津山市に誘致・開催されました。

海洋研は、東洋大学教授の岩下哲典先生を代表として、若手の研究者を中心に結成されたフレキシブルな研究会です。この大会は「津山・中津・津和野の洋学者たち」をテーマとし、まず岩下先生の「津山の学問(洋学・実学・国学)とその地平 中津・津和野



公開研究大会



市内史跡見学会

を視野に」と題する基調報告の後、早稲田大学大学院の佐々木千恵氏、東洋大学大学院の小林哲也氏、佛教大学大学院の相澤みのり氏が研究報告を行い、続けて下山純正名誉館長の司会進行でシンポジウムが行われました。

上廣倫理財団との共催による文化フォーラムとしても開催された研究大会の様子は、Zoomでオンライン配信され、約70名が視聴しました。

翌日には、当館職員の家内で、泰安寺の宇田川家三代墓所など市内史跡の見学会も開かれました。

「三津同盟」記念シンポ  
津和野町で開催

9月25日(日)、三津同盟の締結を記念し、その経緯や今後の展望について話し合うシンポジウム「蘭学・洋学三津同盟」の軌跡と今後の展望(主催・津和野町教育委員会)が、津和野町の藩校養老館において開催されました。

まず、三津に共通する歴史的な背景を中心として、それぞれの歴史・文化・偉人などを、中津市歴史博物館学芸員の曾我俊裕氏、津和野町教育委員会学芸員の小杉紗友美氏、当館館長の小島が順



で紹介した後、同盟締結に至るまでの経緯として、平成9年に津山市と津和野町が共同で実施した津田真道・西周の顕彰事業が実現するまでの道のりを下山純正名誉館長がエピソードを交えて講演しました。その後、質疑応答をしながら今後の展望について、ご来場の皆さんと話し合いました。

「三津」の小学校を結ぶ  
オンライン授業の実施

昨年12月から今年2月にかけて、「蘭学・洋学三津同盟」を締結した津山市と中津市、津和野町の三市町の小学校どうしの交流事業として、オンライン授業が実施されました。

12月6日に林田小学校と中津市立北部小学校、12月8日と2月9日には鶴山小学校と津和野町立津和野小学校をオンラインでつなぎ、それぞれ地元元の蘭学者について調べたことを紹介し合うなどして、交流を深めました。お互いの市や町について関心を持ち、理解が深まるよう期待します。

NEWS  
FILEオムニバス講演会を  
開催しました

1月29日(日)、毎年恒例となっているオムニバス講演会を開催しました。今回は「人頭模型の作者は津山藩内の人物だった!?」と題して、当館で複製を常設展示している「木造人頭模型」について、近年の調査研究によって明らかになってきたことを、当時の時代背景なども交えつつ、郷土博物館および当館の職員がご報告しました。



ちと津山藩医宇田川玄随(小島)というテーマで、人頭模型が製作された時代について、当時の津山藩の状況や、宇田川玄随・桂川甫周をはじめとする蘭学者たちの動向などを紹介しました。

次に、「細工職人 鈴木常八について」(郷土博物館 東というテーマで、人頭模型を製作した鈴木常八が、なぜ津山藩の人物である可能性が高いと推測するに至ったのか、津山藩の資料や各種の文献に基づいて解説しました(その詳細は7頁を参照)。

最後に、下山名誉館長が「総括」として、新館オープンにあたり、東京大学医学部所蔵の人頭模型のレプリカを常設展示用に製作した当時のお話しなどを交えながら締めくくりました。

当日は、数日前の記録的な大雪がまだ解けきらず、足下が悪い中、約50名の方々に越えただきましました。まことにありがとうございました。

## 新収蔵資料紹介

## 寄託

■扁額 4点

津山市東新町出身の細菌学者で化学及血清療法研究所の設立者である太田原豊一(おたはらゆひ)の遺品として、ご子孫の太田原和敏さんから、志賀潔などが揮毫した扁額4点をご寄託いただきました。



## 寄贈

■キャンドルスタンド 1点

当館展示室の絵付け装飾に携わられた永江絹子さんから、ヒンデローペンの装飾が施されたキャンドルスタンドをご寄贈いただきました。



■日高秩父関係資料

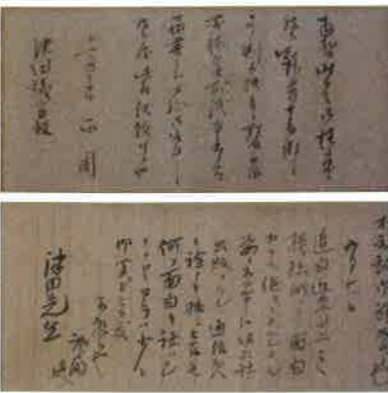
計166件181点

箕作阮甫の義理の孫に当たり、宮内省の官僚で能書家であった日高秩父のご子孫である杉本淳子さんから、辞令・勲記や書簡などをご寄贈いただきました。

## 購入

■津田真道宛書簡集 1巻

津山出身の洋学者の津田真道に届いた書簡10通を集めて巻物に仕立ててあり、加藤弘之、西周、神田孝平など、明六社に関わった人々からの書簡が含まれます。



## 資料館展示品から

今も昔も人目を引く細工

## 人頭模型 (複製)



参考文献：緒方富雄「寛政六年五月カピタンが桂川甫周に与へた人の首の模型について」、西川杏太郎・中里寿克「東京大学医学部蔵人頭模型の製作技法調査と修復処置」

常設展示室へ足を踏み入れてすぐ目に入る「人頭模型(複製)」。この資料は、東京大学医学部標本室が所蔵している木造人頭模型のレプリカで、新館オープンにあたり製作されました。東京大学医学部が所蔵している木造人頭模型は、宇田川玄随の師でもある桂川甫周が、オランダ商館長から贈られた蠟製の人頭模型を模して造られたと考えられています。この木造の人頭模型を製作したのは、鈴木常八という人物です。

長らく、この鈴木常八がどのような人物であったのか不明とされてきました。しかし、昨年、洋学資料館と郷土博物館の共同研究により、鈴木常八は津山藩にゆかりのある人物で

ある可能性が高いことがわかりました。

きっかけは、津山藩の江戸日記に、鈴木常八が幕府の役人から「紅毛(オランダという意味)水器細工」を命じられている記録を発見したことです。これは、寛政五年(一七九三)の出来事でした。一方、木造の人頭模型を鈴木常八が製作したのは寛政六年。同時期に西洋に関する技術をもった同姓同名の人物が二人いたとは考えにくく、木造の人頭模型を製作したのは津山藩の鈴木常八であった可能性が高いと考え、共同調査を進めました。その後さらに、常八が製作した龍尾車(西洋の技術を用いた排水ポンプ)を用いて大坂の排水工事をを行うよう松平定信が常八へ依頼し

ている記事を発見。津山藩の鈴木常八が保有していた技術は、老中松平定信にも認められていたことがわかりました。

さて、それでは津山藩の鈴木常八はどういった人物だったのでしょうか。残念ながら詳細はわかりませんが、その後の調査で、ほんのわずかな期間しか津山藩に在籍していなかったことがわかってきました。

まず、江戸日記の記述から、鈴木常八が津山藩に召し抱えられたのは、寛政五年の少し前と考えられます。この時に藩主であった松平康哉は、寛政六年に死去、同年閏十一月六日には死後百日の法要が執り行われました。ちょうどその日、鈴木常八は「よんどころない筋」があるため藩から暇を出されたのです。実はこの二日前、幕府細工所の役人がやってきて、幕府御用のために常八に暇を出すよう要請していたのです。その裏には、幕府のかなり重要な人物が、常八の細工を見て気に入ったという背景がありました。これは人頭模型が製作された約二ヶ月後の出来事です。

津山藩の優秀な人材が幕府に引き抜かれることは常八が初めてではなく、宝永頃には津山藩の外科医であった鹿倉という人物が幕府の医師となったことが先例として記されています。このように、津山にはまだまだたくさん歴史的な事実が埋もれています。

文 郷土博物館学芸員 東方里子

# INFORMATION

令和5年度の催し物(予定)

企画展

- 4月
- 企画展「資料が秘めた物語Ⅳ」
  - 22 第76回文化講演会「出島オランダ商館の輸入砂糖について」講師：洋学史学会会長 八百啓介先生
  - 22 友の会総会 (休館日：10・17・24日)
- 5月
- 27 友の会研修バス旅行 (休館日：1・2・8・9・15・22・29日)
- 6月
- (休館日：5・12・19・26日)
- 7月
- 29 親子でヒンデローペンの作品づくり
  - 30 ヒンデローペン絵付け体験教室 (休館日：3・10・18・19・24・31日)
- 8月
- 5 江戸時代の化学書からの再現実験教室
  - 19「明六社創設150周年記念企画展(仮)からだのしくみを学ぼう！」 (休館日：7・14・15・21・28日)
- 9月
- (休館日：4・11・19・20・25・26日)
- 10月
- 7「ペリー来航170周年記念企画展(仮)」 (休館日：2・10・11・16・23・30日)
- 11月
- 友の会創立40周年記念祝賀会
  - 友の会史跡見学会 (休館日：6・7・13・20・24・27日)
- 12月
- (休館日：4・11・18・25・29～31日)
- 1月
- 28 オムニバス講演会(職員による研究報告会) (休館日：1～3・9・10・15・22・29日)
- 2月
- (休館日：5・13・14・19・26・27日)
- 3月
- (休館日：4・11・18・21・25日)

3/11～

資料が秘めた物語Ⅳ

～7/30

8/19～  
明六社創設  
150周年  
記念企画展  
～9/18

10/7～

ペリー来航170周年記念企画展(仮)

～2/18



令和5年度前期企画展

会期：令和5年3月11日(土)～7月30日(日)

## 刊行物のお知らせ

洋学研究誌『一滴』第30号を刊行します

### 目次

- 別段風説書の取り扱いと翻訳作業  
—江戸訳の場合— …松本英治
- 令和3年度企画展報告  
資料が秘めた物語Ⅲ  
あれも薬 これも薬  
生誕200年記念 宇田川興斎
- 史料紹介 慶応三年 薩摩藩家老岩下佐次右衛門のパリからの書簡 …相澤みのり
- 1644年11月24日に離日する、オランダ商館長エルセラックが長崎奉行馬場利重から伝えられた江戸幕府の海外への非関与姿勢について …土井康弘

3月刊行 全96頁 500円

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会

※新型コロナウイルス感染症の影響により、催し物は予告なく変更となることがあります。なるべく資料館ホームページでご確認ください。

## ご利用案内

- 開館時間／9:00～17:00(入館は16:30まで)
- 休館日／月曜日(祝祭日の場合はその翌日) 祝日の翌日、年末年始(12月29日～1月3日)

### ■入館料／

一般	一般(65歳以上)	高校・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)	200円 (160円)

※( )内は30名以上の団体料金です。  
※小学生・中学生は無料です。

**津山洋学資料館**  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地  
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864  
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



### ●交通のご案内

- ・JR津山駅から東横環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分